

岡崎の視聴覚教育

この一年

情報化社会の進展、ニユーメディア利用の日常化等の世情は、本市視聴覚教育への進め方に大きな課題となつておし迫つてきている。

殊に、パソコンを中心とした「教育におけるコンピュータ利用のあり方」については、その真意と確かな方向性を問われる年でもあつた。こうした課題に応えるため、視聴覚ライブラリーにおいては、運営組織の一つにパソコン委員会を増設し、小中学校でのパソコン活用に関する事例的研究と、その実践記録集の作成を進めてきた。

NO 131
発行日 62.3.3
発行 岡崎市AVL
編集 広報委員会

一方、従来からの自作ビデオ教材、OHP-ITPづくり、放送教材・一六ミリ映画の活用、双方向を生かした校内放送活動の充実、アナライザーの利用など、まさに多様化する視聴覚教育推進の年でもあつた。



十一月	視聴覚ライブラリー組織にパソコン委員六名
五月	自作八ミリ映画・自作ビデオ製作開始（六作品）
六月	視聴覚主任のニユーメディア研修会
七月	市制記念アニメ映画会・一六ミリ映写機講習会
八月	VTR実技講習会・パソコン実技講習会・校内放送アナウンス講習会
十月	四小学校へパソコン導入
十一月	全国放送教育論文に三名入賞
一二月	視聴覚主任の教育機器研修会
一月	全国視聴覚教育論文文部大臣賞に美川中、全国自作視聴覚教材コンクール文部大臣賞に三浦教諭（常盤南小）入賞
二月	県自作視聴覚教材コンクールに七作品入賞
三月	岡崎市視聴覚教育賞に個人賞二名、団体賞五名
	OHP-ITP作品で三十六名入賞
	パソコン実践記録集作成
	研究誌「岡崎の視聴覚教育」第十八号作成
	放送番組と学習指導関連表作成

県立作視聴音教材コンクール 発表会行われる

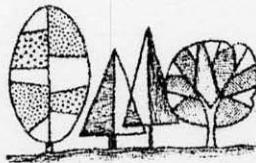
去る二月十七日、県教育センターにおいて今年度のコンクール作品発表会が行われ、岡崎より受賞関係者十五名が参加した。表彰式に続き、優秀作品の試写があり、盛況であつた。岡崎市関係分の入賞は、次のとおりである。

- ◆優秀賞 「ねりがしら」（八ミリ映画・一般成人）
「下水のしまつ」（ビデオ・小四社会）
「電気を送る」（ビデオ・小四社会）
- ◆優良賞 「オイカワの夏」（ビデオ・小四ゆとり）
「えきではたらく人」（ビデオ・小二社会）
「地域を見る」（道路の開通と六ツ美地区）（ビデオ・中二社会）
- ◆佳作 「岡崎が海だったころ」（ビデオ・中三理科）

最後に、審査員から、教材作りは難

しいが、基本的なことを守れば良いものとなる。特に感覚的なものを大切にし、素材の整理し、受け手を意識して

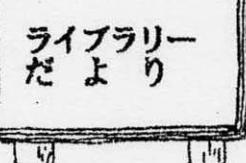
製作して欲しいと総評があつた。



機材コーナー

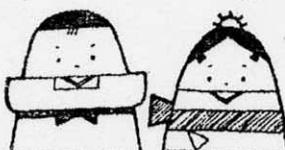
ワープロ

いろいろな機種が出ているが、かな字変換であること、打ち込みやすいこと、ICカードのさし替えで機能が増加できることと、通信機能があることなど、よく考えて選択するとよい。



*三学期は、三月十七日（火）
が最終配達です。

*来年度は、四月七日（火）
から配達します。



月報「調査研究」の発行を終えて

親しまれる月報をめざし、昨年度までガリ版印刷をしていたが、時代のニーズにこたえて、本年度よりワープロで印字し印刷するようにした。また、今年度より機材コーナーを新設し、新機種の紹介をするようにした。
今年度発行した122号に、各校、諸先生方の貴重な実践報告をいたいた。ご協力に深く感謝します。